

2020年11月19日

ベラルーシに関する インダストリアル・グローバルユニオンの決議

ベラルーシの独立労働組合との連帯

ベラルーシでは2020年8月から、選挙違反、大規模な弾圧および逮捕に対する平和的な抗議が続いている。これらの抗議は、独立労働組合を含む市民社会によって広く支持されている。反対派は10月26日にゼネストを要求し、多くの労働者が参加した。民主的な権利を使って平和的な抗議やストを行おうとした労働者が、警察によって阻止され、使用者と国家当局・治安部隊の両方によって威嚇された。主として公共部門の使用者が労働者を脅し、賃金や社会的給付を独断的に削減し、労働者の多くを不当解雇した。労働者は当局からも威嚇され、家族とともに警察に尋問されて逮捕された。彼らの多くが刑事告発され、高い割合で禁固刑を言い渡されている。

現在までに1万5000人の抗議者が逮捕され、その多くが刑務所で拷問・暴行を受け、大学生は退学させられ、多くの人々が国を去ることを余儀なくされた。ベラルーシでは、長年にわたって労働者の権利が抑圧されている。労働者は事実上、労働・生活条件の改善を求めて闘うことができない。ほとんどすべての労働者が有期雇用契約しか結ばず、簡単に解雇される恐れがある。

民主的で自由な労働組合は長年、活動を弾圧・妨害されてきた。これらの抑圧は、ベラルーシが批准した国際労働基準に明らかに違反している。

インダストリアル・グローバルユニオンは、ベラルーシの同僚の側に立ち、以下の妥当な要求を支持する。

- 平和的なストライキやデモ行進に参加した人々に対する暴力や大規模な弾圧をやめること。
- 自由で公正な選挙を新たに実施すること。
- すべての政治犯を釈放すること。
- 解雇された労働者全員を復職させること。
- 抗議行動の暴力的な抑圧に加わった者を刑事告発すること。

インダストリアル・グローバルユニオンは他の労働組合連合およびその加盟組織とともに、すべての関連国際・欧州レベル機関と各国政府に対し、民主的な反対の弾圧ならびにベラルーシの独立労働組合指導者・活動家に対する嫌がらせや脅迫に対してより強力な手段を取るとともに、ベラルーシとの経済・政治関係を見直すよう求める。さらに、不法拘留されている独立労働組合指導者・活動家を即時釈放し、すべての告発を取り下げるべきである。ベラルーシで民主主義が勝利を収める見込みがあるならば、自由な労働組合の積極的支援、EUの政治干渉、国際社会の支援なくしては実現し得ない。